

地域の環境を活用したキャリア教育の実践～河川教育を通して

帯広市立豊成小学校 学級数 30 (校長 岸 梅 哲 郎)

I 取組の概要

本校では、児童が夢や希望をもって自分の未来を切り開いていくことができるよう、キャリア教育を教育課程の中核に位置付けて教育活動を進めてきた。特に、本校の近くを流れる小河川「機関庫の川」をフィールドに、地域の環境を生かした教科等横断的な学習や探究的な活動を通して、児童が自身の生活と自然環境のつながりを意識するとともに、自分の住む地域の未来を考え、自ら行動する力を育むことを目指している。

II 実践の概要

1 キャリア教育の視点から身に付けられる力

川・水に係る学習では、自然環境の素晴らしさや不思議さなどの気付きから探究課題を見出すことで、自然と関わりながら自身の生き方を考えさせている。本校では、キャリア教育の視点から、身に付けさせたい力を次の4つに整理して、全学年の教育課程へ「機関庫の川」をフィールドとした学習活動を位置付け、系統的に指導している。

	川・水に係る学習で身に付けさせたい力	キャリア教育において身に付けさせたい能力 (基礎的・汎用的能力)
1	探究的に学習に取り組む	課題対応能力
2	環境と自分達との関係について理解を深める	自己理解・自己管理能力/キャリアプランニング能力
3	命のつながりについて考えをもつ	自己理解・自己管理能力
4	自分らしい生き方を創造する	キャリアプランニング能力/人間関係形成・社会形成能力

2 6年間の学びの具体 (今年度の取組)

第1学年 生活科「夏となかよし」



帯広北高校の生徒とともに初めての川遊びを体験した。自然や生き物に対する気付きを深め、探究的に学習に取り組む態度の育成を図った。

第2学年 生活科「生き物となかよし」



帯広北高校の生徒と生き物捕りを体験した。どのようにしたら採集できるか相談をしながら、自然や生き物に対する気付きの質を高める学習を行った。

第3学年 総合的な学習の時間「機関庫の川と友達」



「機関庫の川の博士になろう」を合言葉に、川についての探究課題を見出し、自然と共生するための自身の役割について考える学習を行った。

第4学年 社会科「自然災害からくらしを守る」



大型地図を活用した学習をもとに、周辺流域の高低差を認識し、環境と自分たちの生活とのつながりを考える学習を行った。

第5学年 理科「流れる水のはたらき」



流域模型による氾濫実験を通して、水害のメカニズムを知り、環境と自分達との関係についての理解を深めるとともに防災・減災の意識をもつ学習を行った。

第6学年 理科「生き物どうしのつながり」



機関庫の川の外来種の影響を理解し、ウチダザリガニの駆除、堆肥作りに取り組むことを通して、命のつながりを考える学習を行った。

III 成果 (○) と課題 (●)

- 川・水に係る学習で身に付ける資質・能力と、キャリア教育で身に付ける基礎的・汎用的能力の育成が強く結び付いていることについて、全職員で共有した上で取組を推進したことにより、児童が自然と自身の関わりについて理解を深め、探究的に学ぶ姿が見られた。
- 令和4年8月22日(月)に本校を会場に開催した「全国河川教育実践研究会十勝大会」において、本校の教育活動を全国の河川・水教育に関わる先生方に発表することで、取組を価値付けることができた。
- 河川・水教育とキャリア教育との関連をより一層吟味し、学習内容や教材について、系統性を明確にすることができるよう検証・改善を図る必要がある。